

立つ鳥  
あと 跡を濁さず

出る杭は  
打たれる

泥棒捕らえて  
縄をなう

寝耳に水  
ねみみ

蒔かぬ種は  
生えぬ

たで食う  
虫も好き好き

灯台下暗し  
とうだいもとくら

どんぐりの  
背比べ

能ある鷹は  
爪を隠す

門前の小僧  
習わぬ経を読む

棚からぼた餅

遠くの親類より  
近くの他人

飛んで火に入る  
夏の虫

喉元過ぎれば  
熱さを忘れる

焼け石に水

月とすっぽん

隣の芝は青い  
となり

泣きつ面に蜂  
はち

ひょうたんから  
駒

寄らば大樹の蔭  
たいじゆ かげ

月夜に提灯  
ちようちん

捕らぬ狸の  
皮算用

二階から目薬

覆水盆に返らず  
ふくすいぼん

類は友を呼ぶ

鶴の一声  
つる

虎の威を  
借る狐

猫に小判

仏の顔も  
三度まで

渡りに舟